

『大河ドラマ「どうする家康」 プレミアムトーク小牧市』を 開催しました

8月13日、市民会館ホールで、『大河ドラマ「どうする家康」プレミアムトーク小牧市』を開催しました。

これは、8月13日放送の第31回「史上最大の決戦」と8月20日放送の第32回「小牧長久手の激闘」で小牧・長久手の合戦が描かれることを機に開催したものです。

問合先 シティプロモーション課（☎76・1172）

第1部では、ドラマの時代考証を担当する平山優さんが登場し、「徳川家康の賭け 秀吉との対決」をテーマに、小牧・長久手の合戦に至るまでの経緯や、合戦時の両軍の布陣などを図解で紹介しながら語りました。

第2部では、豊臣秀吉役のムロツヨシさん、織田信雄役の浜野謙太さんが登場。

NHK名古屋放送局の澤田拓海アナウンサーの進行のもと、ムロさんと浜野さんの掛け合いの面白さと軽妙なトークに、会場は終始笑いに包まれました。

「家康」の
取材レポート
vol.3

今後期待して欲しい部分

トークの内容を抜粋してお届けします（敬称略）。

浜野…家康がどんどん賢くなってきた、今までの頼りない「白ウサギ」というポジションが信雄に移ってくる気がして、和む人もいるのかなと思います。

ムロ…信長の息子という立場のある人が慌てふためくと、秀吉としては乗り気にさせるか怒らせるかのどちらかですね。浜野さんが演じているからこそ、僕

も便乗したところがあります。

豊臣秀吉について

ムロ…僕は今回秀吉として「ダークヒーロー」になりたいと思いました。結果的には「ダークピエロ」で、誰にとつても笑われる存在だけでも、気付いたらいつの間にか天下人になっていた…という感じかな。信長は、秀吉の嘘を見抜いていても、ピエロになれるからこそあの距離感で置いてくれたらと思っています。同じ距離にいた家康に対しては、嫉妬というよりも尊敬ですね。家康は、秀吉とは違うやり方で信長との距離を保っていて、この三人はいびつな三角形にあると思います。

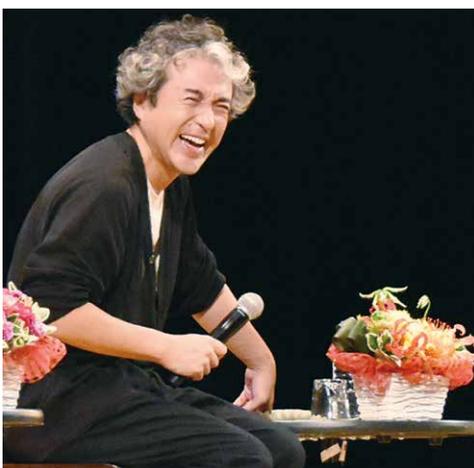


織田信雄について

浜野…信雄はなんとなく自分に似ていると思いました。近くに偉大な人がいると、自分と比較してしまつて辛いというのはよく分かる気がします。物事を自分で決めることをしなくなつて、いざ決めなければいけない場面が来たときにうろたえてしまうというか。自分と似ているからこそ演じにくさを感じました。

ムロ…秀吉からすると、ここまでいとも簡単に思いどおりになつて、感情の操作をこんな楽しめる人はいないと思いますね。

浜野…秀吉というか、ムロさんが本当に怖かったですよ。自然とまぶたが痙攣してしまうくらいでした。





徳川家康について

浜野…何か、一定の温かさがあるんですよね。家康の家臣団も含めて一つの家族のように見えます。それを築けるような「偉大なる父」という感じがしました。だからこそ、信雄は家康グループのことをうらやましく感じたのではないのでしょうか。

△ロ…やっぱり一定の優しさがある人だと思います。僕は「白ウサギ」だった家康が、今の姿になるまでの経緯も見ていました。最初は信長がいたからこそ家康でしたが、今後どのようになり「白ウサギ」から皆さんの知る「タヌキ」になっていくのか、もしくはならないのか。そこを楽しみにしていただけに嬉しいし、松本さんもそこに悩みながら、日々撮影に挑んでいるの

を見させていただいています。

質問タイム

質問…名古屋弁はイントネーションが違うので、覚えるのも大変かと思いますが、普段名古屋弁が出ることはありますか？

△ロ…いや、ないですね。本当に難しかったです。秀吉が使っているのは尾張弁なんですけど、やりすぎると関西に寄ってしまうんだそうです。覚えるときは尾張出身の役者さんに読んでもらって、それを聞いていました。練習中に松本さんと岡田さんが寄ってきて、わざと違うイントネーションで言うって混乱させようとするので困りました(笑)。
質問…大河ドラマの撮影期間中に食べたものの中で一番印象に残ったものを教えてください。



浜野：合戦で食べる大きな丸いおにぎり、すごくおいしそうに見えませんか？実はすごく再現度が高くて、塩気がだいぶ控え目でしたね。あとはカブのお味噌汁がすごくおいしかったです。

△：私は出演者やスタッフの皆さんとそうめん大会をしたのが楽しかったですね。梅干しとかツナで味変したりしてね。

浜野：いいなあー！



小牧・長久手の合戦の みどころ

浜野：小牧・長久手の合戦のことは知ってはいましたが、こんなに家康がすごい人だったのかというの分かる戦いですよね。それから、最新の研究から分かっていた戦い方にも触れられているんですよ。それは戦国好

きとしてはワクワクします。そんな中、信雄は一般人のうっぼいというか、難しいことは、劇中で全部信雄が尋ねてくれますからね。

△：小牧・長久手の合戦があったからこそ、秀吉は天下人になれたのかもしれないし、信雄様がいるおかげで、家康に負けたこの戦いを、後に秀吉がプラスにできたという要素も描かれます。まずはそこを楽しみにしていただきたいと思います。その上で、家康と秀吉の関係性がさらに深くなっていき、いろいろな人が絡み合ってきます。

家臣団の皆さんと家康の信頼関係もより深くなっていきます。秀吉もダークピエロとして頑張りますので、ぜひ見てください。



▲当日の様子はこちら

プレミアムトークの開催前に △ロさんと浜野さんが小牧山を訪れました。

まず、二人は小牧山歴史館の展望室に上り、濃尾平野を一望しました。ここでは、信長が「魅せる城」として築き、家康が「守る城」へと変貌させた小牧山城に関する説明を熱心に聞いていました。

また、小牧・長久手の合戦で秀吉軍の砦となった岩崎山を見つけると、「こんなに近い距離でにらみ合っていたんですね」と当時の合戦の緊迫した状況を実感していました。



次に、小牧山南側の復元土塁を見学しました。ここでは、土塁が秀吉軍からの目隠しの役割を果たしたことや、これだけ大きな工事をわずかから日間で完了させたことを聞き大変驚いていました。



その後、高さ8mもの土塁を、ヘルメットをかぶって駆け上がりました。先に登りきった△ロさんが、敵方の浜野さんに手を差し伸べるという、役の上ならあり得ない光景も見られました。

△ロさんは「こんなに高い土塁を一つ越えてもまだ侵入できないなんて絶望ですね。秀吉が小牧山城を攻めなかった理由が分かった気がします」と話しました。

トークショーでも 小牧山を訪れたこと 言及

△ロ…歴史館で展望台に上って、街の景色を見ました。秀吉が本陣を構えた砦との距離感が本当にリアルに感じられました。あの時代で街の音もなかったとしたら、本当にどんちゃん騒ぎの声も聞こえたらどうだろうなと思いました。

司会…今は高い建物がありますが、当時はきつと威圧感もあつたでしょうね。

浜野…くつきり見えました。本当に距離感がリアルでしたね。

△ロ…職員の方から説明を聞いて、圧倒的な数的有利の秀吉でも、攻めてこられなかった理由が分かりました。それだけ小牧山の守りが強固だったんだということですよ。本当にいい経験させていただきました。もっと早く来てもよかったです。

した。

歴史館の展望台の足元には地図があつて、周りの景色を含めて、距離感や岡崎城の向き、長久手の場所などが書いてありましたね。

それから、ヘルメットをかぶって土塁にも登らせていただきました。信雄様がね、全然登ってきてくれないんですよ。こちらですって言うても全然来てくれないで(笑)。

浜野…いや、僕革靴だったからなかなか登れなかったんです。△ロさんの靴はすぐく登りやすそうでしたね。

△ロ…土塁を登るにはすぐくよかったです(笑)。

